

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 9月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	2290300025
法人名	医療法人 新光会
事業所名	グループホーム つながり
所在地 (電話番号)	419-0124 静岡県田方郡函南町塚本77-7 055-970-2938
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年8月13日

【情報提供票より】(平成20年7月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 19 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 2 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 7.23 人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	60,000 円	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(平成20年7月15日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.7 歳	最低 71 歳	最高 88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊豆平和病院、ウエムラ歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年4月に開設されたホームは、住宅街と田園風景が混在する新興住宅地に位置している。また国道136号線至近で交通の便も良く、外出や買い物の利便性にも恵まれている。現在は2階建ての1階部分のみを利用し、1ユニットで運営されているが、将来は2ユニットでの運営が期待されている。元気で明るいホーム長の理念を職員が良く共有し、利用者と共にゆったりと過ごす姿が見られた。また利用者の笑顔と生き生きと動く姿が印象的なホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価なし
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 今回が初めての評価であったが、評価の意義を良く理解し、自己評価は職員が全員で取り組んでいる。難解な部分は管理者が支援し、自己評価を糧にホーム全体のサービスの質について検討し再評価する良い機会となっている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 現状では管理者の呼びかけにより、町役場の職員、区長、民生委員、利用者、家族が参加し、3ヶ月に1度の開催となっている。ホームからは運営の実施状況や利用者の生活状況が報告され、利用者や家族からは意見や要望が出されているが、地域の行事や会合についての情報提供が少ない。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族との交流が深く、面会も頻回であることから、管理者や職員は常に家族に声かけを行い、利用者の生活や言動について細かく説明をしておき家族からの信頼も厚い。家族からの意見は迅速に他の職員に伝達され、朝夕のカンファレンスで全員が共有する。家族の意見を迅速に業務に生かすシステムが出来ている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎日の散歩時には挨拶や声かけを実施する等、日常の生活を通じて地域の一員として交流できるよう努力している。また近隣の人々が気軽に立ち寄り、地域に密着した施設として認知されているが、地域の祭りや行事等に積極的に参加するまでには至っていない。今後は近隣の住民との親密な交流を目指し、地域の行事や会合への主体的な参加が望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は利用者が「その人らしい生活」を送ることを目標に、「ゆっくり・ゆったり・ありのまま・いつもにこにこ」というホーム独自の理念を提唱している。理念はホーム内に掲示され日々実行の努力がなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は、ホームの理念を職員と利用者の相互関係と捉え、笑顔を大切に日々理念の実践に取り組んでいる。また朝夕のカンファレンスや業務の申し送り時等においても、常に確認作業が行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の散歩時には挨拶や声かけを実施する等、日常の生活を通じて地域の一員として交流できるよう努力している。また近隣の人々が気軽に立ち寄る、地域に密着した施設として認知されているが、地域の祭りや行事等に積極的に参加するまでには至っていない。	○	近隣の住民との積極的な交流を目指し、地域の行事についての情報を収集し、主体的に参加する事が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を良く理解し、自己評価は職員が全員で取り組んでいる。難解な部分は管理者が支援し、自己評価を糧にホーム全体のサービスの質について検討し再評価する良い機会となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状では管理者の呼びかけにより、町役場の職員、区長、民生委員、利用者、家族が参加し、3ヶ月に1度の開催となっている。ホームからは運営の実施状況や利用者の生活状況が説明され、利用者や家族からは意見や要望が出されているが、地域の行事や会合についての情報提供が少ない。	○	運営推進会議は定期的に行われているが、活発な情報交換には至っていない。行政や地域からの意見や情報提供を促し、サービスの質の向上につなげる積極性が望まれる。また、2ヶ月に一度の開催に向けた努力をお願いしたい。

静岡県 グループホーム つながり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は運営推進会議以外にも行政との接点を持ち、役場等に働きかけている。今後は役場だけではなく、地域包括支援センター等にも働きかけ、広く情報や意見を求めることでサービスの質の向上を図る計画がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族との交流が深く、面会も頻回であることから「ホームだより」は発行していない。しかし管理者や職員は常に家族に声かけを行い、利用者の生活や言動について細かく説明をしておき家族からの信頼も厚い。	○	「ホーム便り」は、地域への広報のみならず、ホームが提供するサービスの質の確認、自己研鑽や振り返りにもなる。口頭での説明に終始することなく、書面や写真等を利用することで、記憶に残り思い出にもつながる「ホームだより」の発行が期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、頻回に訪れる家族からの意見に耳を傾けている。意見は迅速に他の職員に伝達され、朝夕のカンファレンスで全員が共有する。家族の意見を迅速に業務に生かすシステムが出来ている。意見や苦情の外部窓口は重要事項説明書に明記されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来職員の退職、異動がないため、利用者、家族とのなじみの関係が出来ている。1フロア1ユニットの家族的な雰囲気の中で利用者のゆったりとした生活が営まれ、家族の信頼も厚い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時には管理者が実施するアンケートをはじめ、ホームの特性を理解し心構えを構築するシステムを持っている。また外部研修への参加支援や学習の機会の確保等、職員を育てる取り組みを実施している。今後は法人としての研修体制を整えていく計画もある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは管理者レベルの交流が進み、相談や情報共有を実施している。しかし個人的な交流に留まり、職員相互の交流の機会を持つまでには至っていない。	○	同業者との交流から学ぶものは多い。管理者レベルから職員同士の交流が進み、相互関係の中から互いに学びあい、サービスの質の向上に生かしていく姿勢が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の希望があった場合には、家族や本人に良く説明し、充分に見学等を実施し納得した上で利用するように働きかけている。また、問合せや見学等は随時受け付けており、気軽に訪問し、ホームの雰囲気に馴染みながら利用するためのシステムが出来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者、職員は利用者の持つ能力を良く理解し、各々に応じた役割を持つよう働きかけている。また利用者が若い職員に料理を教え年寄りの知恵を語る等、職員と利用者が家族のように学びあい、支えあう姿が見られた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の家族からの聞き取りにより生活歴や暮らし方の意向を把握している。また毎日の生活から利用者の思いを汲み取っている。利用者が塞いでいるときには管理者が時間をかけて話し合い、気分転換を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画について説明を受け、一緒に話し合っていることを家族アンケートで全9家族が回答している。個人記録等に記録された職員の日々の気付きと本人・家族の意見を加味した介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	管理者が看護師としての目で利用者を観察しており、小さな変化にも対応した細やかな見直しがされている。計画が合わない認められた場合には迅速に見直しを実施することで常に現状に相応しい介護計画となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の送迎や外出、家族との外出・外泊も支援している。またホームの台所や浴室等を自由に使い、家族と利用者が交流する場を提供している。管理者の人脈を通じたボランティアの支援も受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特に希望が無い場合には、ホーム系列の病院をかかりつけ医としており毎月訪問診療を受けている。専門医への受診は紹介状により受診している。看護師を2名有し、医師との指示・報告の連携により体調不良時の回復も早く、利用者・家族の安心がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の段階で家族に終末期の対応を伺っているが、家族には予想がつかないため、同意書を交わしていない場合もある。2名の看護師と医師の連携に加え職員の利用者に対する思いもあり体制は整っている。今後は早い時期の家族との話し合いにより方針を共有してゆく姿勢である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	あらゆる意味で拘束をしていないかを常に意識しており、気になる言葉かけは無かった。調査当日、家族と墓参する利用者に、職員がスラックスの穿きかえを優しく促し、身なり良く外出していた。利用者を見守りながらのミーティングは、テレビの音量を調整しながら実施し個人情報の漏洩を防止している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者はホーム開設時より、常に「ゆっくり」を指導しており、職員は良く受け止めている。食事も利用者に合わせて、言葉かけも優しく見事に介助している。トイレの付き添いも根気良く対応していた。畑仕事が好きな利用者が家の畑を心配するため、朝家に送り、夕方迎えに行く支援を週に1回続けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しい食事はホームの特徴であり、利用者と職員が楽しんで作っている。利用者の家族も台所に入り、若い職員は利用者や家族に教えていただきながら料理や献立を覚え上達を喜んでいる。利用者は包丁捌きも見事に調理したり、食後の片付けや食器拭きなど、出来ることを一緒にしている。	○	食事時に居合わせた家族には試食をしていただいたりしているが、今後は様々な家族を交代で招待し、共に食事をしたいたのホームの希望を是非実現していただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	殆どの利用者が毎日入浴しており、体調により入れない利用者は足浴を実施している。家族による入浴の世話を希望された場合にも、家族もホームの一員との見地から自分の家と同じように使用し満足していただけるよう配慮している。夕食後の入浴も希望があれば対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者には得意なことがそれぞれあり、詩吟を披露したり、料理に腕を振るったりまた、ドリルやカラオケなどを楽しんでいる。洗濯物を干したり畳んだりも利用者の役割となっている。利用者の張り合いを失うことの無いように、利用者が遠慮しているのを見逃さず、役割の配分等に配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	太陽に当たることの効果を十分理解し、大雨以外は真夏でも毎日2回散歩に出ている。気持ちを開放し夜間の熟睡に導いてくれ、風邪引きもゼロである。買い物や系列施設での芋ほりや栗拾い、家族との外出も支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は利用者の出入りや来客も多く、鍵を掛ける合間がないほどであるが、事故防止のため利用者の出入りを見守る体制が出来ている。夜間は利用者の不安を招かないよう早めの施錠をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て消防車や救急車を配備した防災訓練を行っている。また、ほぼ毎月防災訓練の日を設けて全職員参加のもと救急蘇生や地震・火災時の訓練をしており、近所に住む職員の家族も巻き込んだ連絡体制も出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	多くの食材を使い、たんぱく質を必ず含め、塩分を控えたバランスの良い食事が供されており、主食・副食の摂食量も記録されている。体調不良や嚥下障害のある利用者の水分摂取量は記録され定期的な体重測定と併せ個々に応じた支援をしているが、全員の水分摂取量の記録はない。	○	体調変化時に参考とするために一人ひとりについて一日の水分摂取量をたまかでも記録されるよう望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は窓を開放しクーラーを使用しないで自然の風を通して快適に過ごしている。トイレや浴室、洗面台も清潔である。居間・廊下は広々として古い書棚に百科事典や美術書が収まり、ライティングビューローにはブリキの湯たんぼが置かれ懐かしさを感じる。利用者が元気であった頃に描いた油絵が雰囲気を高めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ家にいたときの暮らしが継続できるよう、寝具の様式も自由にしており、仏壇や使い慣れた箆笥も持ち込まれている。衣類を整然と吊るしたり、愛犬の絵や大切な人形を飾ったり、また必要なものがすぐ手に取れるようベッドの周囲に台を置くなど利用者が安心して過ごせる居室作りをしている。		